大総務第 137 号
令和３年３月 19 日

大阪市外郭団体評価委員会
委員長　阪口　彰洋　様

大阪市長　松井　一郎
（担当：総務局行政部総務課法人グループ）

諮問書

大阪市外郭団体等への関与及び監理事項等に関する条例（平成 25 年大阪市条例第 10 号）第７条第１項に規定する外郭団体である公益財団法人大阪市救急医療事業団による令和２年度の経営評価（対象事業活動）の結果及び所管所属である大阪市健康局による大阪市外郭団体の事業経営の評価等に関する指針を定める規程第４条第３号イの規定に基づく当該経営評価の審査の結果について、同条例第７条第４項の規定に基づき、別紙により諮問します。

別紙

《様式1》

【対象事業活動の実績に関する評価】

令和2年度　事業経営評価

団体名	（公財）大阪市救急医療事業団	所管所属名	健康局

中期目標

⑴ 当該外郭団体の事業経営を通じて達成しようとする本市の行政目的又は施策の具体的な内容

大阪府医療計画に基づき市町村の役割としてある初期救急医療体制を確保するため、市内において休日･夜間の急病診療事業を実施すること。

⑵ 中期目標期間

令和２年９月１1日から令和６年３月３１日までの４年間

⑶ 中期目標の期間終了時において、⑴の行政目的又は施策によって実現しようとしている状態

市内における休日・夜間の急病診療事業を実施するため医師等の医療従事者の確保や後送病院との連携がなされ、休日・夜間の急病診療事業が中期目標の期間を通じて安定的かつ継続的に実施できている状態

当該事業年度の評価

外郭団体の自己評価

当該事業年度の指標及び目標に基づく評価を踏まえた団体の総合的な評価

令和2年度においては、通常通りの休日夜間の急病診療事業が困難な中、研修内容の充実や後送病院の確保等の取り組みを実施し、調査票については遅れつつも回収作業は進んでいる。事業団として、医療従事者の確保と後送病院の安定的な確保の取り組みが出来たことにより、初期救急医療体制の確保に繋げることができた。

最終目標達成見込み	最終目標達成に向けた課題及び課題解消に向けた次年度以降の取組について
ア	コロナ禍の影響も懸念されるが、最終目標達成のためには、以下の取組をしっかりと進めることが必要である。 医療従事者の確保については、ＰＰＥ（個人用防護具）等感染予防策や研修の充実に努める。 また、後送病院の確保については、患者診療実態調査票の回収促進、看護師や出務医師への聞き取りを継続し医療機関に対する情報収集を行うなどにより、後送病院の数を維持できるよう努める。
ア：順調 イ：遅れあり ウ：計画の見直し必要	

市の評価

当該事業年度の指標及び目標に基づく評価を踏まえた本市の総合的な評価

新型コロナウイルス感染症の流行が急拡大する状況の中にあって、年度計画に掲げたほとんどの目標が達成できており、初期救急医療に求められる医療従事者の確保と適正な後送病院の安定的な確保に向けた取組みが進められた。その結果、休日・夜間の急病診療を継続して実施し、初期救急医療体制を確保するとともに市民に提供できたことは評価できる。しかしながら、今年度は患者診療実態調査票の回収率において、唯一、目標が未達成となったが、次年度に向けて必要な改善策を効果的に進めていく必要がある。

対象事業活動の実績に関する評価(事業活動に関する事項)

取組－1　（※分野ごとの評価）

中期計画

団体が中期計画期間中に行政目標達成に向けて取り組む具体的な内容

【医療従事者の確保】
（ア）看護師に対する採用時研修の実施、（イ）看護師に対するスキルアップ研修の実施、
（ウ）看護師に対する感染予防研修の実施、（エ）勤続３年以上の看護師の割合

指標（Ⅰ）	（ア）採用時研修における受講者満足度							
目標値	R2目標	進捗率	R3目標	進捗率	R4目標	進捗率	R5目標（最終目標）	進捗率
	80%	―	80%	―	80%	―	80%	―

指標（Ⅱ）	（イ）スキルアップ研修の受講者満足度							
目標値	R2目標	進捗率	R3目標	進捗率	R4目標	進捗率	R5目標（最終目標）	進捗率
	80%	―	80%	―	80%	―	80%	―

指標（Ⅲ）	（ウ）感染予防研修の実施回数							
目標値	R2目標	進捗率	R3目標	進捗率	R4目標	進捗率	R5目標（最終目標）	進捗率
	１回	―	１回	―	１回	―	１回	―

指標（Ⅳ）	（エ）勤続３年以上の看護師の割合							
目標値	R2目標	進捗率	R3目標	進捗率	R4目標	進捗率	R5目標（最終目標）	進捗率
	60%	―	60%	―	60%	―	60%	―

年度計画達成状況（指標Ⅰ）

【計画】団体が当該事業年度に取り組む具体的な内容	【実績】団体が当該事業年度に取り組んだ具体的な内容
（ア）看護師に対する採用時研修の実施 ・休日・急病診療所特有の業務に携わるにあたっての知識や技術の習得を目的として、全ての新規採用者に対して経験やスキルに応じた研修を個別に実施する。 ・指導看護師の意見を取り入れ、研修マニュアルや指導内容の更なる充実を図る ・受講者アンケートにより受講者の満足度を確認し、改善に努める。	（ア）看護師に対する採用時研修の実施 ・9月1日から12月31日までの全ての新規採用者（４名）に対して経験やスキルに応じた研修を個別に実施した。 ・指導看護師の意見を取り入れ、コロナ禍に対応するために感染症対策の比重を大きくするなど研修マニュアルや指導内容の充実を図った。 ・受講者アンケートにより全受講者が満足であるとの回答を得た。

【指標Ⅰ】目標の達成状況

実績値	前々年実績	前年実績	R2年実績	目標達成率	達成状況
	―	―	100%	100%	a (i)

中期計画に対するの進捗状況【当該事業年度】	ア	ア：「順調」 イ：「遅れあり」 ウ：「計画の見直し必要」	《達成状況》 a：目標達成　（ｉ)取組は予定どおり実施　(ii)取組を予定どおり実施しなかった b：目標未達成　（ｉ)取組は予定どおり実施　(ii)取組を予定どおり実施しなかった

年度計画達成状況（指標Ⅱ）

【計画】団体が当該事業年度に取り組む具体的な内容	【実績】団体が当該事業年度に取り組んだ具体的な内容
（イ）看護師に対するスキルアップ研修の実施 ・知識や技術の習得を目的として、初期救急医療業務を中心に医療全般に関するテーマの研修を、中堅看護師等を対象に１回実施する。 ・医師会等の外部機関の研修を取り入れるなど多種多様な研修を受講させる。 ・受講者アンケートにより受講者の満足度を確認し、改善に努める。	（イ）看護師に対するスキルアップ研修の実施 ・コロナ禍のなかでは参加者を集めることも困難であったが、医師会主催の小児救急研修会の内容が充実しており中堅看護師のスキル向上に役立つと判断し、8名を受講させた。 ・受講者アンケートにより受講者全員から満足であるとの回答を得た。

【指標Ⅱ】目標の達成状況

実績値	前々年実績	前年実績	R2年実績	目標達成率	達成状況
	―	―	100%	100%	a (i)

中期計画に対するの進捗状況【当該事業年度】	ア	ア：「順調」 イ：「遅れあり」 ウ：「計画の見直し必要」	《達成状況》 a：目標達成　（ｉ)取組は予定どおり実施　(ii)取組を予定どおり実施しなかった b：目標未達成　（ｉ)取組は予定どおり実施　(ii)取組を予定どおり実施しなかった

年度計画達成状況（指標Ⅲ）

【計画】団体が当該事業年度に取り組む具体的な内容	【実績】団体が当該事業年度に取り組んだ具体的な内容
（ウ）看護師に対する感染予防研修の実施 ・新型コロナウイルス感染症等の新興感染症を含む感染症について、予防知識の習得を目的として感染予防研修を、中堅看護師等を対象に１回実施する。 ・受講者アンケートにより受講者の満足度を確認し、改善に努める。	（ウ）看護師に対する感染予防研修の実施 ・新型コロナウイルス感染症等の新興感染症を含む感染症について、感染症予防や受講者の参加しやすさの観点から集合研修よりDVDによる研修が適切であると考え、中堅看護師等を対象に23名を受講させた。 ・受講者アンケートにより受講者全員から満足であるとの回答を得た。

【指標Ⅲ】目標の達成状況

実績値	前々年実績	前年実績	R2年実績	目標達成率	達成状況
	—	—	1回	100%	a (i)

中期計画に対するの進捗状況【当該事業年度】	ア	ア：「順調」 イ：「遅れあり」 ウ：「計画の見直し必要」	《達成状況》 a：目標達成　（ⅰ）取組は予定どおり実施　（ⅱ）取組を予定どおり実施しなかった b：目標未達成　（ⅰ）取組は予定どおり実施　（ⅱ）取組を予定どおり実施しなかった

年度計画達成状況（指標Ⅳ）

【計画】団体が当該事業年度に取り組む具体的な内容	【実績】団体が当該事業年度に取り組んだ具体的な内容
（エ）勤続３年以上の看護師の割合 ・上記（ア）～（ウ）の取組みの効果を評価する指標として、勤続３年以上の看護師の割合を単年度においても評価する。	（エ）勤続３年以上の看護師の割合 ・PPE（個人用防護具）の確保や発熱患者の隔離を徹底するなどあらゆる新型コロナへの感染予防策を実施し、看護師の不安を取り除くことなど良好な職場環境の維持に努めた結果、期間内の勤続3年以上の看護師の退職者数を抑えられた。

【指標Ⅳ】目標の達成状況

実績値	前々年実績	前年実績	R2年実績	目標達成率	達成状況
	—	—	64%	100%	a (i)

中期計画に対するの進捗状況【当該事業年度】	ア	ア：「順調」 イ：「遅れあり」 ウ：「計画の見直し必要」	《達成状況》 a：目標達成　（ⅰ）取組は予定どおり実施　（ⅱ）取組を予定どおり実施しなかった b：目標未達成　（ⅰ）取組は予定どおり実施　（ⅱ）取組を予定どおり実施しなかった

外郭団体の自己評価

指標の達成状況	a (i)	a：目標達成　（ⅰ）取組は予定どおり進捗　（ⅱ）取組は予定どおり進捗していない b：目標全部未達成　（ⅰ）取組は予定どおり進捗　（ⅱ）取組は予定どおり進捗していない c：目標一部未達成　（ⅰ）取組は予定どおり進捗　（ⅱ）取組は予定どおり進捗していない

当該事業年度の達成状況について

採用時研修の受講者満足度やスキルアップ研修の受講者満足度については、すべての参加者から満足したとの回答を得て、当初目標を達成することができた。
感染予防対策研修についても期間中に1回研修を実施することができた。
勤続3年以上の看護師の割合については、全看護師数92名中59名（64%）を確保することができた。

最終目標(中期計画)達成に向けた課題及び課題解消に向けた次年度以降の取組について

採用時研修の受講者満足度やスキルアップ研修の受講者満足度については、参加者のうち80%以上が目標であるが、令和２年同様100%の満足を目指し、さらなる研修内容等の充実に努める。
感染予防対策研修については、コロナ禍で集合研修の実施が困難になる可能性があるが、令和3年はDVD研修やリモート研修等による実施も検討する。
3年以上の看護師の確保についても各種研修や職場環境の改善等に努め、現状の維持に努める。

市の審査

指標の達成状況	a (i)

a：目標達成　（ⅰ）取組は予定どおり進捗　（ⅱ）取組は予定どおり進捗していない
b：目標全部未達成　（ⅰ）取組は予定どおり進捗　（ⅱ）取組は予定どおり進捗していない
c：目標一部未達成　（ⅰ）取組は予定どおり進捗　（ⅱ）取組は予定どおり進捗していない

「様式1：中期目標⑶」に対する取組の有効性	ア	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す

「外郭団体の自己評価」に対する審査結果

採用時研修、スキルアップ研修、感染予防研修にかかる資料及び受講者アンケートを確認したところ、取組は予定どおり進捗しており、各指標の目標も達成していることから、外郭団体の自己評価は妥当である。

「中期目標」達成の視点からみた審査結果

新型コロナウイルス感染症の急拡大の中にあって、勤続３年以上の看護師の割合が目標である60%を超えており、各種研修の実施や感染予防対策を含む職場環境の改善によって、医療従事者の確保に繋がったと評価する。

対象事業活動の実績に関する評価(事業活動に関する事項)

取組－２　（※分野ごとの評価）

中期計画

団体が**中期計画期間中**に行政目標達成に向けて取り組む具体的な内容

【後送病院の安定的な確保】
（ア）後送病院に送付した患者診療実態調査票の回収、（イ）患者診療実態調査票に記載された意見等への対応、
（ウ）新たに後送病院を希望する医療機関への取組み

指標（Ⅴ）	（ア）患者診療実態調査票の回収率							
目標値	R2目標	進捗率	R3目標	進捗率	R4目標	進捗率	R5目標（最終目標）	進捗率
	100%	―	100%	―	100%	―	100%	―

指標（Ⅵ）	（イ）意見等に対する対応率							
目標値	R2目標	進捗率	R3目標	進捗率	R4目標	進捗率	R5目標（最終目標）	進捗率
	100%	―	100%	―	100%	―	100%	―

指標（Ⅶ）	（ウ）新規後送病院数							
目標値	R2目標	進捗率	R3目標	進捗率	R4目標	進捗率	R5目標（最終目標）	進捗率
	―	―	1病院	―	1病院	―	1病院	―

年度計画達成状況（Ⅴ）

【計画】団体が**当該事業年度**に取り組む具体的な内容	【実績】団体が**当該事業年度**に取り組んだ具体的な内容
（ア）後送病院に送付した患者診療実態調査票の回収 ・患者を受け入れた後送病院に対して、調査票を送付し、後送した患者の実態把握を行うとともに、意見や要望等があれば調査票に記載してもらうことで問題点や課題の把握・解消に努める ・患者を受け入れた全ての後送病院に対して調査票の回収を行い、回収率100％を目標に取組む。・調査票の提出が遅い病院に対して電話にて返送を促す。	（ア）後送病院に送付した患者診療実態調査票の回収 ・11月30日までに患者を受け入れた後送病院に対して調査票（202件）を送付し、意見や要望等があれば調査票への記載をお願いした。 ・上記のうち12月31日までの回収数は161件（約80％）であるが、未回収の調査票についても電話にて返送を促しており、年度内に回収（残りの41件）できる見込みである。

【指標Ⅴ】目標の達成状況

実績値	前々年実績	前年実績	R2年実績	目標達成率	達成状況
	―	―	79.7%	79.7%	b (i)

中期計画に対するの進捗状況【当該事業年度】	ア	ア：「順調」 イ：「遅れあり」 ウ：「計画の見直し必要」	《達成状況》 a：目標達成　（ⅰ）取組は予定どおり実施　（ⅱ）取組を予定どおり実施しなかった b：目標未達成　（ⅰ）取組は予定どおり実施　（ⅱ）取組を予定どおり実施しなかった

年度計画達成状況（Ⅵ）

【計画】団体が**当該事業年度**に取り組む具体的な内容	【実績】団体が**当該事業年度**に取り組んだ具体的な内容
（イ）患者診療実態調査票に記載された意見等への対応 ・患者を受け入れた後送病院に対して、調査票を送付し、後送した患者の実態把握を行うとともに、意見や要望等があれば調査票に記載してもらうことで問題点や課題の把握・解消に努める。 ・後送病院からの意見に対しては、対応の方向性や対応結果、考え方等について返答を行うとともに、必要に応じて出務医師へのフィードバックを行い、対応率100％を目標に取組む。	（イ）患者診療実態調査票に記載された意見等への対応 ・11月30日までに患者を受け入れた後送病院に対して調査票（202件）を送付し、意見や要望等があれば調査票への記載をお願いした。 ・回収済みの調査表で記載された意見は3件あった。そのうち回答が必要なもの１件はすぐ回答し、その他は２件であった。その内容については、事業団内部や出務医師にも情報共有を行った。

【指標Ⅵ】目標の達成状況

実績値	前々年実績	前年実績	R2年実績	目標達成率	達成状況
	―	―	100%	100%	a (i)

中期計画に対するの進捗状況【当該事業年度】	ア	ア：「順調」 イ：「遅れあり」 ウ：「計画の見直し必要」	《達成状況》 a：目標達成　（ⅰ）取組は予定どおり実施　（ⅱ）取組を予定どおり実施しなかった b：目標未達成　（ⅰ）取組は予定どおり実施　（ⅱ）取組を予定どおり実施しなかった

年度計画達成状況（Ⅶ）

【計画】団体が当該事業年度に取り組む具体的な内容	【実績】団体が当該事業年度に取り組んだ具体的な内容
（ウ） 新たに後送病院を希望する医療機関への取組み ・出務医師や看護師等からの聞き込みを中心に新たに後送病院を希望する可能性のある医療機関の調査を行うなど、令和３年に新規の後送病院が参入できるよう準備を行う。	（ウ） 新たに後送病院を希望する医療機関への取組み ・現在のコロナ禍のなかでは新規の後送病院の参入を増やすことは困難ではあるが、出務医師や看護師等からの聞き込みを中心に新たに後送病院を希望する可能性のある医療機関の情報を収集した。

【指標Ⅶ】目標の達成状況

	前々年実績	前年実績	R2年実績	目標達成率	達成状況
実績値	―	―	―	―	a (i)

中期計画に対するの進捗状況【当該事業年度】	ア	ア：「順調」 イ：「遅れあり」 ウ：「計画の見直し必要」	《達成状況》 a：目標達成　（ⅰ）取組は予定どおり実施　（ⅱ）取組を予定どおり実施しなかった b：目標未達成　（ⅰ）取組は予定どおり実施　（ⅱ）取組を予定どおり実施しなかった

外郭団体の自己評価

指標の達成状況	c (i)	a：目標達成　（ⅰ）取組は予定どおり進捗　（ⅱ）取組は予定どおり進捗していない b：目標全部未達成　（ⅰ）取組は予定どおり進捗　（ⅱ）取組は予定どおり進捗していない c：目標一部未達成　（ⅰ）取組は予定どおり進捗　（ⅱ）取組は予定どおり進捗していない

当該事業年度の達成状況について

・後送病院に送付した患者診療実態調査票の回収については一部未回収ではあるが、該当病院からは電話にて後日送付する旨の確約をいただいており年度内には100％の回収が実現する見込みである。
・意見等については３件と少なかったものの、回答が必要な1件については直ちに回答し、その他２件の意見については回答は不要であった。その内容は、事業団の内部や出務医師にも情報を共有をした。
・結果、コロナ禍ではあるものの、後送病院を辞退する医療機関はなく、取組等によって、医療機関としっかりコミュニケーションを図れた成果だと考えている。
・現在のコロナ禍の中では新たに後送病院を希望する医療機関を見つけることは極めて困難ではあるが、出務医師や看護師等から聞き込みを行い、少しでも可能性のある医療機関の情報を収集した。

最終目標(中期計画)達成に向けた課題及び課題解消に向けた次年度以降の取組について

患者診療実態調査票の回収は、コロナ対応による後送病院の業務繁忙などコロナ禍の影響により一部未達成となったが、次年度においては、未回収分の再送付を行う、督促回数を増やす、最終的には直接訪問するなどにより回収率を改善し目標の達成を目指す。
後送病院の新規参入については、現在のコロナ禍では後送を引き受ける病院側の業務繁忙による理解不足や情報不足などにより、新規に手を挙げる上げる医療機関を見つけることが非常に難しいとの状況を確認した。しかしながら、その中で少しでも可能性のある医療機関には参入条件、メリットやデメリットを直接説明するなど後送病院に対する理解を深めてもらい、必要に応じて後送病院として参入できるよう準備を進めてもらうことで、後送病院を辞退する医療機関が出てきたとしても後送病院の数が維持できるよう努めていく。
また、既存の後送病院については連携を密にし、要望や意見などを取り入れることにより継続しやすい環境を作っていく。

市の審査

指標の達成状況	c (i)	a：目標達成　（ⅰ）取組は予定どおり進捗　（ⅱ）取組は予定どおり進捗していない b：目標全部未達成　（ⅰ）取組は予定どおり進捗　（ⅱ）取組は予定どおり進捗していない c：目標一部未達成　（ⅰ）取組は予定どおり進捗　（ⅱ）取組は予定どおり進捗していない
「様式1：中期目標⑶」に対する取組の有効性	ア	ア：有効であり、継続して推進 イ：有効でないため、取組を見直す

「外郭団体の自己評価」に対する審査結果

回収された患者診療実態調査票を確認し、意見に対する対応についての説明を受けたところ、取組は予定どおり進捗している。指標の一部について目標未達成ではあるものの、次年度に向けての改善策も検討しており、外郭団体の自己評価は妥当である。

「中期目標」達成の視点からみた審査結果

新型コロナウイルス感染症の急拡大の中にあって、患者診療実態調査票の回収については目標に届かなかったものの、後送病院からの意見等については適切に対応がなされており、後送病院との連携が図られたことにより、コロナ禍の中ではあるが後送病院を辞退する医療機関がなかったことは評価できる。
未達成の目標については、次年度に向けて洗い出した課題に基づき、改善策を着実に実行するとともに、今年度取り組んだ出務医師や看護師等への聞き取りによる新規の後送病院に関する情報収集を生かして、次年度以降も引き続き後送病院の安定的な確保の取組みを進める必要がある。